

令和 5 年 5 月 22 日現在

機関番号：12606

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00151

研究課題名（和文）「あいだ」と「つながり」 東南アジア島嶼部の伝統音楽・舞踊における一体感の生成

研究課題名（英文）Interactions and connections: Making a sense of cohesion in traditional performing arts of Insular Southeast Asia

研究代表者

増野 亜子 (Mashino, Aki)

東京藝術大学・音楽学部・講師

研究者番号：50747160

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究はインドネシアの伝統芸能を対象に、演者と演者、演者と観客、演者とモノの間で生じる相互作用とそこから生じる一体感を、音と身体の運動に焦点をあてて考察した。現地調査及び芸能者との共演、関連領域における文献調査から、演者が他者の生み出す音と身体動作に細やかに対応し、協働する特別な身体性を、経験と訓練によって習得する過程、および音と身体の緊密な相互作用が複雑なネットワークを構築して上演を生み出す過程を分析した。また芸能が生み出す音と身体一体感の美的に重視されるだけでなく、しばしば共同体のアイデンティティ表象に貢献することを明らかにした。研究成果は論文、公開公演及び録画によって公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

芸能が生み出す一体感は一般に広く認識されているものの学術的な研究対象になることが少なかった。本研究は特に音と身体の間で生じる相互作用に焦点を当て、複数の演者の協働する過程を分析し、バリの伝統芸能が細やかな相互作用の中から生み出されていることを明らかにした。「舞踊」と「伴奏音楽」という既存概念や役割分担をいったん離れて、芸能の現場で生じるあらゆる音と身体の間で相互的ネットワークが築かれる可能性を考える、という本研究の視点は、インドネシア以外の芸能研究全般においても今後分析と議論の足がかりとなること期待され、舞踊・音楽・芸能の研究を横断する包括的な方法論的な発展に貢献するものである。

研究成果の概要（英文）：This project examines interactions between performers, between performers and audiences, between performers and non-human objects, and the sense of cohesion created by these interactions, with particular focus on the interplay between sound and body, in traditional performing arts in Indonesia.

Based upon field research, collaborative performance with Balinese performers, and literature surveys in ethnomusicology, ethnochoreology, and cultural anthropology, I analyzed the performers' development of their corporeality that responds to and collaborates with the sound and movements produced by others, through training and experience, and the complex network created by such interactions. The study also revealed that the cohesion of sound and body movements is not only aesthetically important, but often contributes to the representation of the communal identity in Indonesia. The research results were published as articles, as well as in public performance and video documents.

研究分野：音楽人類学、民族音楽学

キーワード：伝統芸能 伝統音楽 身体 相互作用 一体感 共同体 インドネシア

1. 研究開始当初の背景

東南アジア島嶼部の芸能では、演者の身体の動きや生み出す音声が統合されて一つにつながるような感覚、すなわち一体感が重視されることが多く、それらの感覚は時には儀礼や祝祭の場の高揚感や共同体意識の形成にも寄与している。

しかしこの「一体感」が具体的にどのような現象をさし、どのように生成されるのか、またどのような技術や芸能の形式がそのような演者間の緊密な連携を可能にするのか、といった疑問は学術的に十分に考察されていない。そこで本研究は芸能上演中の演者と演者の「あいだ」のやりとりに着目し、演者間の相互作用的な関係性、すなわち「つながり」の形成を明らかにしようとした。

2. 研究の目的

本研究はインドネシアの伝統芸能の上演を、参加者（舞踊家・音楽家・役者・観客等）の間で生じる、ミクロな相互作用が一つのネットワークに統合・構築される過程としてとらえなおそうとするものである。

芸能の上演中、人々は互いに音や身体の動きを知覚しながら、それに対応して自身の音を生み出し、身体を動かしている。上演中に人々のあいだではどのようなやりとりが行われ、それぞれの音と身体動作はどのように互いを導き、作用しあうのか。芸能において他者と協働し、連動する身体性はどのように獲得されるのか。また芸能から生まれる一体感を人々はどのように感じ、そこにどのような意味や価値を見出しているのかを考察するものである。

3. 研究の方法

本研究は主に(1)現地調査、(2)招聘公演事業、(3)文献調査の3つの方法によって進めた。

- (1) インドネシア（バリ島とロンボク島）で3年間に約8週間の現地調査を行い、芸能実践の観察と記録、関係者へのインタビューを実施した。当初はマレーシアやジャワ島・スマトラ島等でも現地調査を予定していたが、コロナ下で延期・中止せざるを得なかった。このため計画を変更してバリ島とロンボク島に調査地を絞り、伝統的な器楽合奏ガムラン、歌芝居アルジャ、影絵人形芝居ワヤン・クリット、群舞ルダット等、いずれも複数の演者を必要とする芸能をとりあげ、それぞれのジャンルにおいて音と身体の相互関係を分析・考察した。また稽古や準備のプロセスにも注目して、他の演者に反応し、連動する身体性がどのように形成されるのかを考察した。
- (2) バリから演者を招聘し、日本人演奏者と共同で伝統影絵人形芝居を上演した。研究者自身が伴奏の器楽合奏に参加し、演奏者間及び演奏者と人形遣いのあいだの緊密な相互作用を主体的に経験し、理解しようと試みた。また上演と準備の過程を記録し、後日現地の実演家からフィードバックを得ながら、実際に人形遣いの声、楽器、人形、演者の身体がどのようなつながりを生んでいたのかを分析した。
- (3) 舞踊学・音楽学・文化人類学における先行研究を参照しながら、自身の調査事例との比較考察を行った。また他領域の研究者と議論し、共著論文の執筆を通して音と身体の相互作用を理解するための方法論の構築を試みた。

4. 研究成果

複数の事例の分析からは、インドネシアの伝統芸能の上演中、演者の「あいだ」でうまれる「つながり」は、（舞踊家の）舞踊と（音楽家の）演奏の統合といった単純な図式ではとらえきれないことがわかった。

たとえば歌芝居では役者は踊りながらも音（声）を出し、身体動作と声を連動させている。同時に伴奏を聴きながら、音にあわせて身体を動かしながら、かつ他の踊り手の動作や声にも反応しているのである。同じことは演奏者にもいえる。楽器奏者の身体の動きとそこから生まれる音との間には相互作用があるだけでなく、演奏家は他の演奏家の音や身体を知覚しながら、それに連動し、統合するように自らの身体を動かして音を生み出して合奏を成立させる。そして同時に踊り手の声と身体を知覚し、それに反応し、連動するように演奏してもいる。つまり芸能上演は「舞踊と伴奏」というような単純な役割分担の組み合わせとしてはとらえきれない。役者も音（声）を出し、演奏者も身体を動かしており、上演に関わる複数の人々それぞれの身体と音の間には、個々の役割に応じた複雑で精緻な相互作用のネットワークが築かれているのである。

研究では芸能上演の現場で生じる音と身体との相互作用をとらえるモデルの構築を目指した。その成果は舞踊研究者エリナ・セイェとの共著で英語論文(Mashino and Seye 2021)として学術誌に発表した。このモデルでは(1)個人の身体における音と身体動作(音を生み出すために身体を動かす等)、(2)複数の身体における音と身体(他人の音に対応して音を生み出す、他人の音を聞いて身体を動かす、あるいは他人の動作に反応して音を生み出す等)、(3)連動して生じ、「一体」として感じられる音(合奏等)や身体(群舞等)同士の間(合奏によって群舞の伴奏をする、複数団体が共演するなど)の3つの層に整理し、それぞれのレベルで同時に生じる相互作用が、上演に関わるあらゆる人々を相互に連動させ、あるいは協働していると考えられる。このモデルは舞踊や音楽の研究に幅広く応用が可能であると考えている。

芸能のジャンルや上演形態によって、3つのレベルで構築される相互作用ネットワーク(つながり)のあり方はそれぞれに異なっている。研究ではインドネシアの複数の芸能・音楽の事例を分析考察しながら、上記のような音と身体との相互作用のありかたについて考察を進めていった。

パリの伝統音楽グンデル・ワヤンの合奏の分析からは、複数の演者の中でやりとりされているのは音と音だけではなく、演奏者には互いの身体と連動する身体性が必要であり、初心者から学習や稽古の過程でそうした身体性の習得が重視されていることを指摘した。また演奏者が互いの音を聞くだけでなく、互いの身体を「見る」ことが重要であり、さらに身体を「見る・見せる」ことは観客と演者の相互作用の上でも重要であることが明らかになった。

歌芝居アルジャの研究では演者と演者の間の関係性だけでなく、身体とモノの間の緊密な相互作用によっても一体感が生じること、そして特にアルジャの衣装のうち、冠と演者の身体との間に築かれる特別な関係性が、世代を超えた芸能伝承を支える機能をもつことを明らかにした。

また伝統武術から生まれたイスラム教徒の芸能ルダットの調査からは、音楽と動作の緊密な相互作用が、複数の人々の身体を同期させ、統合すること、さらに音によって身体の律動をコントロールすることそのものが、武術が芸能へとシフトする重要な分岐点であること、また集団的な同期が生み出す一体感ゆえに、この芸能がしばしば共同体の集団的なアイデンティティを表象することを明らかにした。

一方、招聘事業を実施した影絵人形芝居に関しては、研究成果として一般公開の公演を行い、後日記録動画に字幕を作成して公開した。コロナの影響で上演後の調査が延期になってしまった、2022年度の現地調査で演者に聞き取りを行い、人形遣い・演奏者・観客のあいだで生じる声・楽器・人形・身体とのあいだでかわされる相互作用的なやりとりが全体として複雑につながりあっていることがわかってきた。これらの影絵芝居の事例に関しては引き続き考察を続け、将来的な研究成果の公表を目指したい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 増野亜子	4. 巻 48
2. 論文標題 場所から見たバリの伝統音楽教習 個人宅・集会所・学校	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 桐朋学園大学研究紀要 https://opactoho.tohomusic.ac.jp/webopac/TC20120881	6. 最初と最後の頁 101-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 増野 亜子	4. 巻 46
2. 論文標題 バリの歌舞劇アルジャにおける有形と無形：冠、身体、ストック・キャラクター：〈特集：「上演を紡ぐ人とモノ：マテリアリティの人類学と上演芸術の研究の交差点」〉	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立民族学博物館研究報告 = Bulletin of the National Museum of Ethnology	6. 最初と最後の頁 277～309
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15021/00009853	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 増野亜子	4. 巻 67-1
2. 論文標題 書籍紹介 梅田英春著『バリ島の影絵人形芝居ワヤン』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 音楽学	6. 最初と最後の頁 55-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Ako MASHINO and Elina SEYE	4. 巻 9-1
2. 論文標題 The Corporeality of Sound and Movement in Performance	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The World of Music	6. 最初と最後の頁 25-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Ako MASHINO	4. 巻 9-1
2. 論文標題 The Body Visualizing the Music: Seeing and Showing Body Movement in Balinese Gender Wayang.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The World of Music	6. 最初と最後の頁 47-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ako MASHINO	4. 巻 105
2. 論文標題 Being Muslim-Balinese: The Music and Identity of the Sasak Community in Eastern Bali	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Senri Ethnological Studies	6. 最初と最後の頁 81-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 Ako MASHINO
2. 発表標題 Soundscape and movement-scape in transition: Toward a choreo-musicological exploration of processional performing arts
3. 学会等名 The 6th Symposium of ICTM Study Group of Performing Arts in Southeast Asia, International Council of Traditional Music Symposium (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 増野亜子
2. 発表標題 舞踊化したシラット パリ・ムスリムの芸能ルダットにおける音と身体動作
3. 学会等名 インドネシア研究懇話会 第三回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 増野 亜子
2. 発表標題 日本におけるインドネシア音楽と舞踊のオンライン教授
3. 学会等名 東洋音楽学会東日本支部定例研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ako MASHINO
2. 発表標題 Rebana and Rebana Ensembles in Muslim Balinese Culture
3. 学会等名 27th ICTM Colloquium: Drums and Drum Ensembles of the Silk Road (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Mashino Ako
2. 発表標題 Competition as a Driving Force Transforming Tradition: A Case Study of Lomba Gender Wayang in Bali, Indonesia.
3. 学会等名 45th World Conference of International Council of Traditional Music Symposium, Bangkok: Culalangkorn University. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 増野 亜子
2. 発表標題 競技会の通文化的考察に向けて パリの伝統音楽競技会の事例から、
3. 学会等名 日本音楽学会東日本支部第62回定例研究会、仙台：宮城教育大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ako MASHINO
2. 発表標題 Performing Arts in Procession as a Contact Zone for Muslim and Hindu Balinese
3. 学会等名 京都大学イスラーム地域研究センター国際ワークショップ “The Encounter with Religious Others through the Music and Musician in Islamic World” (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ako MASHINO
2. 発表標題 Struggling for space, sustaining place: A case study of Indonesian performing arts in Japan during the pandemic
3. 学会等名 the 46th World Conference of International Council of Traditional Music Symposium (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 野澤 豊一、川瀬 慈、青木深、井手口彰典、井上淳生、浮ヶ谷幸代、梶丸岳、大門碧、武田俊輔、西島千尋、福岡正太、伏木香織、増野亜子、松平勇二、矢野原祐史、輪島裕介	4. 発行年 2021年
2. 出版社 アルテスパブリッシング	5. 総ページ数 312
3. 書名 音楽の未明からの思考	

1. 著者名 Eves Defrance(ed.)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 L' Harmattan	5. 総ページ数 349
3. 書名 Voicing the Unheard: Music as Windows for Minorities; Proceedings of Rennes' Symposium ICTM Study Group Music and Minorities 4-8 July 2016.	

1. 著者名 Patricia Matusky and Wayland Quintero et al. (eds.)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Department of Sabah Museum, Ministry of Tourism, Culture and Environment	5. 総ページ数 279
3. 書名 Proceedings of the 5th Symposium: the ICTM Study Group on Performing Arts of Southeast Asia.	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>研究・招聘公演「バリ島の影絵人形芝居ワヤン・クリットwayang kulit」の実施（一般公開） 2019.12.20(金) 光塾common contact 並木町（東京）演目：ワヤン・パルウォ <スタソマ物語>より 2019.12.22(日) スタジオリリカ 地下ホール（東京）演目：ワヤン・ラマヤナ <クンボカルナの死></p>
--

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
フィンランド	ヘルシンキ大学		